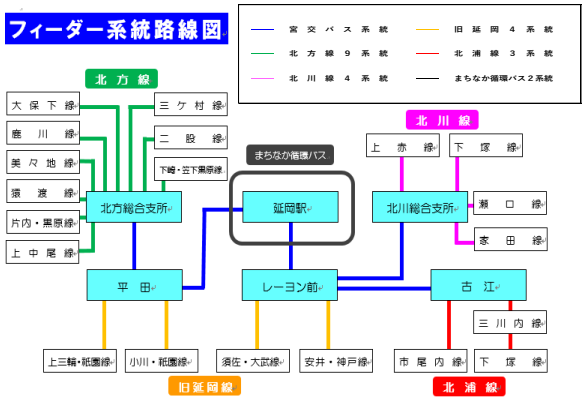
延岡市地域公共交通活性化協議会

事業名：令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

概　要

乗合タクシー

まちなか循環バス



フィーダー系統は①ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ・乗合ﾀｸｼｰ20系統、②まちなか循環バス2系統を運行

【料金】①大人100円／中学生以下無料、②中学生以上200円／小学生100円／幼児無料

【運行主体】

〇旧延岡線4系統・北浦線3系統

　宮崎県ﾀｸｼｰ協会延岡支部（宮交ﾀｸｼｰ、延岡ｸﾞﾘｰﾝﾀｸｼｰ 、扇興ﾀｸｼｰ、宮崎第一交通 ）

〇北方線9系統：あさひ観光バス

〇北川線4系統：延岡市（自家用有償運送）

〇まちなか循環バス2系統：宮崎交通

【現状】

　延岡市では、合併した旧3北地域を中心にｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽや乗合ﾀｸｼｰを運行しており、幹線系統の路線バス等と乗り継いで市の中心部へ通院や買物に行くことができるようになっている。

　また、市の中心部においては、まちなか循環バスが路線バスと連動して移動の利便性を向上させている。自家用車の普及や人口減少等によりバス利用者が減少しているが、交通弱者の移動手段や観光客の利便性向上等、まちづくりにおいて公共交通の確保・維持は今後より一層必要である。

基礎データ

合併状況：平成18年2月に北方町及び北浦町
　　平成19年3月に北川町と合併
人　　口：11.4万人（令和6年12月1日現在）
面　　積：868.02平方キロメートル
過疎地域等指定：過疎、離島、山村
高齢化率：35.44%
補助対象の系統数：22系統（確保維持事業のみ）
自治体負担額：R3：33,821千円　R4：35,774千円　R5：38,870 千円
（確保維持事業対象の乗合タクシー・コミュニティバス・まちなか循環バス）
協議会開催数：協議会6回(令和6年4月～令和7年2月)

計画、目標（Plan）

　本市は、市町村合併によって九州で2番目に広い面積の自治体となった。旧町の中心地域とは宮崎交通の路線バスで結ばれているものの、その他の地域では公共交通空白地域が広がり、高齢者等の日常生活に必要な移動手段のための公共交通体系の再編が必要であった。一方で、利用の低迷や運転士不足などから現状のサービス水準維持ができない可能性が危惧されている状況である。

　このような状況を踏まえ、令和5年3月に延岡市地域公共交通計画を策定し、「市民の暮らしを支える市内交通ネットワークの最適化」「地域全体で育て支え合う持続可能な交通環境の創出」「多様な人と交通が集まり快適で賑わいある交通結節点の機能向上」「広域交通ネットワークの維持・活性化」という4つの目標を掲げ、住民ニーズ等に合わせた市内交通の再編による利便性向上を図るとともに、利便性・持続性・生産性の高い地域公共交通ネットワークへのリ・デザインを推進することとしている。

生活交通確保維持改善計画等の取組み（Do）

- 協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりに、コミュニティバス・乗合タクシー・まちなか循環バスの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。
- 乗合タクシーについては、地域住民の要望を踏まえ、ダイヤ変更や路線変更を実施した。まちなか循環バスについては、小学生の運賃無料化を実施するとともに、本市の特産品である「魚」のイラストを募集し応募のあったイラストを車内に掲示するなどして乗客の確保を図った。
- 公共交通を活用した介護予防事業（以下「ケアプリのべおか」）により、高年齢層の利用促進を図った。

実施状況、目標の達成（Check）

■系統別の乗車率目標と実績（R5年10月～R6年9月）

＜単位：1回（1往復）あたり乗車人数＞

系統が目標達成(100%以上、A評価)、 **系統**が一部達成（80%以上、B評価）、 **系統**が未達（80%未満、C評価）

①美々地線2.0→**2.6**　②鹿川線2.5→**7.3**　③二股線2.4→**5.9**　④猿渡線4.5→**8.6**　⑤三ヶ村線3.0→**6.6**
⑥大保下線4.9→**7.7**　⑦下崎・笠下黒原線2.0→**1.6**　⑧片内・菅原線3.0→**6.5**　⑨上中尾線3.8→**7.9**
⑩下塚線2.0→**1.6**　⑪市尾内線2.7→**3.3**　⑫三川内2.0→**2.0**　⑬上三輪線2.0→**4.0**
⑭安井・神戸線2.0→**3.3**　⑮須佐・大武線2.2→**5.6**　⑯小川線2.0→**3.8**　⑰上赤線2.5→**4.5**
⑱下塚線2.5→**3.7**　⑲瀬口線2.1→**3.4**　⑳家田線2.0→**0.8**　㉑㉒まちなか循環バス8.1→**10.1**

全路線の約86%にあたる19系統で目標達成できた。また、⑦⑩の2系統は一部目標達成に留まったものの、前年度よりも乗車率が向上した。これは、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、利用が回復しつつあることが要因にあると予想される。一方で、⑳の達成率は80%未満となった。沿線人口の減少や移動ニーズの変化等により利用者が減少していることが原因だと考えられる。

今後の課題、対応（Action）

・乗合タクシー及びコミュニティバスについては、目標未達成の系統において地域との意見交換会を実施し、より使い勝手の良い経路・時刻表に見直しを検討していく。R5.12から免許返納者が期間限定で乗車運賃半額で利用できる制度を創設していることから、免許返納者への当該制度の周知に努める。また、市の福祉部門が実施するケアプリのべおかにより利用を促す。

・まちなか循環バスについては、延岡市バス利用促進協議会との連携による小学生の運賃無料期間に合わせたキャンペーンをはじめ、バスの乗り方教室やバスでのお出かけ企画、ケアプリのべおかを実施し、利用を促す。また、令和7年1月から実証運行に取り組む「北部・南部まちなか循環バス」が本格運行に移行した場合は、当該循環バスとの接続による利用促進に注力する。

・地域公共交通計画及び令和6年3月に策定する地域公共交通利便増進実施計画に基づき、最適な路線の構築を目指していく。

延岡市地域公共交通活性化協議会

事業名：令和6年度地域公共交通利便増進事業
（利便増進計画策定事業）

調査事業の概要

令和５年度に策定した地域公共交通計画に基づき、確実な事業の実施及び地域住民の利便性向上に資する地域旅客運送サービスの実現を目指し「延岡市地域公共交通利便増進実施計画」を策定する。

【利便増進調査事業を行うエリアの概要】
延岡市内一円

【調査事業の主な内容】

（１） 市内全路線に関する分析・整理
本市に関係する全路線の運行概要や利用状況等の分析及び整理を行う。
また、路線別に事業内容や方針、事業収入・支出、負担額、平均乗車密度等について路線別の情報を整理する。

（２） 利便増進実施計画（案）の作成
市民の生活行動やニーズなど移動特性に合わせた利便増進事業の具体的な実施内容をはじめ、利便増進事業の実施による利用者数や収支、運転士数などの影響・効果について検討を行う。
また、当該検討結果を踏まえ、地域公共交通利便増進実施計画及び計画書概要版を作成する。

（３） 地域公共交通計画の改定
利便増進事業の実施期間及び事業の内容を踏まえ、すでに策定している延岡市地域公共交通計画の事業期間や内容等について見直しを行う。

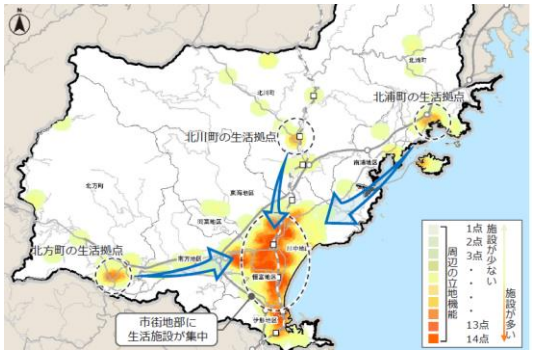
（４） 法定協議会の開催
計画策定に向けた調査内容や調査結果を受けて、今後の交通体系のあり方について議論するための協議会等を開催した。

基礎データ

合併状況：平成18年2月に北方町及び北浦町
　　平成19年3月に北川町と合併
人　　口：11.4万人（令和６年12月１日現在）
面　　積：868.02平方キロメートル
過疎地域等指定：過疎、離島、山村
高齢化率：35.44%
補助対象の系統数：22系統（確保維持事業のみ）
自治体負担額：R3：33,821千円　R４：35,774千円　R５：38,870 千円
（確保維持事業対象の乗合タクシー・コミュニティバス・まちなか循環バス）
協議会開催数：協議会６回(令和６年４月～令和７年２月)

調査前の地域交通状況（Before）

- **バスやタクシーの運転士不足が顕著。特に、バスに関しては、全体の約３割をOBで支えている一方で、３０代前半までの若い人材が採用できていない状況。**
- **市街地にある大規模小売店や医療機関への移動ニーズが高い**
- **郊外部から拠点間を結ぶネットワークの維持・充実が必要**



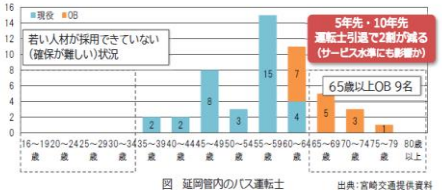


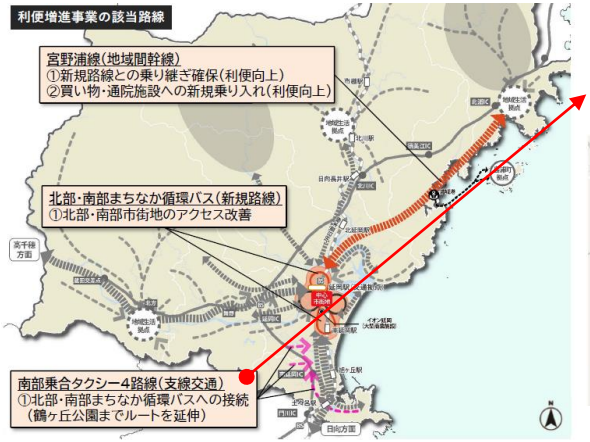
図　延岡管内のバス運転士　　出典：宮崎交通提供資料

運転士が不足する中で、いかにして市街地内の移動利便性を向上させつつ、郊外部から市街地を結ぶネットワークを充実させるかがポイント。

調査後の地域公共交通利便増進実施計画（After）

■北部・南部まちなか循環バスの新設（＋南部乗合タクシー４路線の延伸）
北部・南部地域から中心市街地へのアクセス向上を図るため、北部・南部地域でまちなか循環バスを運行する。
また、土々呂地区などさらに南の地区からも利用できるようにするため、南部乗合タクシー４路線を延伸する。

■宮野浦線のルート変更
地域間幹線である宮野浦線について、主要な買い物施設や医療機関を新たに経由しながら市街地の大規模小売店への乗入れによりさらなる利便性向上を図るとともに、北部・南部まちなか循環バスへの乗り継ぎも可能とすることで、中心市街地の回遊性を向上させる。



※南部乗合タクシー４路線
① 櫛津・土々呂線　② 小野・石田線
③ 赤水・鯛名線　④ 伊形線

▲　上記表は小野・石田線